

# 世代間共助の生まれる宅老所でみんなの居場所作り

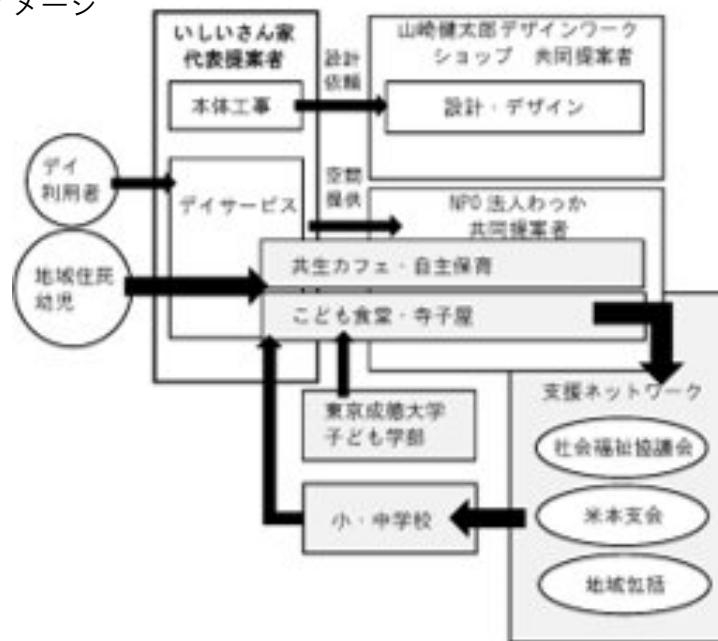
郊外の大規模団地エリアにおいて老人デイサービスセンター内に、自主保育・共生カフェを整備することで、多世代共助の居場所やネットワークを構築する。

- 米本地区は、昭和40年代に建設された3,000戸超の団地が立地し、高齢化が進むと共に、子育て世帯では、共働き、ひとり親からなる子どもの孤食等の問題を抱えている。
- 本提案は、老人デイケアサービスセンターに、共生カフェ、寺子屋、子ども食堂、自主保育等からなる複合施設を整備するものである。
- 自主保育・共生カフェを活用し、地域住民や利用者が隔てなく高齢者・子どもとの接点を増やし、認知症・若年性認知症・高次脳機能障害などへの理解度・印象の変化を検証すると共に、子どもの居場所作り・多世代共助ネットワークを構築することを目的とする。



『5 2 間の縁側』  
季節の情緒を感じ、社交の場としても機能するのが縁側である。外界と室内をつなぐ縁側を作ることで、デイサービス利用者と庭の畑にいる幼児や地域住民が気軽に集まり、お茶を飲みながら雑談をする仕掛けを作る。

事業運営イメージ



## 事業概要

代表提案者	有限会社オールフォアワン
共同提案者	NPO法人わっか、山崎健太郎デザインワークショップ
事業実施場所	千葉県八千代市
事業実施内容	宅老所の新築(地上、地下各1階建て、1棟:老人デイサービスセンター、共生カフェ、寺子屋、子ども食堂等)、こどもと高齢者との交流状況・共生カフェでの利用状況の把握、情報誌の制作配布、HPでの情報提供等
事業実施期間	令和2年3月～令和4年3月

## 評価委員会での評価内容

- 宅老所等の運営実績を持つ事業者が、認知症などの高齢者、高次脳機能障害などの障害者、生活困窮者、共働き・ひとり親の子どもなどにとって「寛容な場」を設け、地域の課題を解決しようとする事への挑戦として期待できると共に、実行可能性が高い取り組みである。
- また、利用者や地域住民が気軽に触れ合える仕掛けとしての縁側を設けるなど建築的工夫がみられることも評価できる。
- 一方、極端に細長い特徴的な建築計画であるため事業を進める中で建築的工夫についても、検証しながら実施することが必要である。